

(参考2) 平成16年平均消費者物価地域差指数の概況

(1) 平成16年平均消費者物価地域差指数(全国平均=100)を地方別にみると、総合指数(持家の帰属家賃を除く。)は、関東が102.8と最も高く、次いで北海道が102.3、近畿が101.4、北陸が100.4となっている。

一方、最も低いのは、沖縄の95.6で、次いで九州が96.9、四国が97.2、中国が98.5、東北が99.4、東海が99.7となっている。

(2) 都市階級別にみると、大都市が104.7、中都市が100.1、小都市Aが98.5、小都市Bが97.3、町村が97.1となっており、大都市の指数は町村に比べ7.8%高くなっている。

(3) 都道府県庁所在市別にみると、東京都区部が110.4と最も高く、次いで横浜市が109.6、大阪市が106.9、京都市が105.1、長崎市が104.6となっている。

一方、最も低いのは、那覇市の97.3で、次いで松山市が98.3、宮崎市が98.4、前橋市が98.9、岐阜市が99.0となっている。

なお、東京都区部は那覇市に比べ13.5%高くなっている。

統計表は446ページに掲載している。

図 地方別消費者物価地域差指数

